

音楽科 学習指導案

横浜国立大学教育学部附属横浜中学校 佐塚 繭子

1 対象・日時 2年B組 令和6年11月23日(土) 1校時

2 本題材で育成したい資質・能力（評価規準）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知楽器の音色や響きと奏法との関わりについて理解している。</p> <p>技創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能を身に付け、器楽で表している。</p>	<p>思音色、リズムを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい器楽表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。</p>	<p>態弦楽器の音色やリズムと曲想との関係に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。</p>

3 題材「ハーモニーや弦の音色を楽しみ、弾き語ろう♪～E hau‘oli i ka ‘ukulele～」について

本題材では、表現領域の器楽分野としてウクレレに取り組む。ウクレレはハワイ音楽の象徴的存在として世界に認知され、今は広く愛好されている楽器である。もとは19世紀後半にポルトガルからの移民が持ち込み、独自に発展した。ウクレレと呼ばれるようになったのは、1880年代である。弦楽器は、箏を和楽器として触れたことがある生徒もいるが、音色としてはギターなどで身近にありながらなかなか触れる機会の少ない楽器である。授業で取り上げることで、弦楽器の奏法や響きを楽しみながら、音楽文化と豊かに関わり生涯にわたって音楽を愛好する心情を育みたいと考え、授業計画を立てた。

弦楽器を演奏する際には、手の大きさや、指の力加減などが、技能の習得に大きく関係するが、ウクレレ（今回使用するのはソプラノウクレレ）は弦が4本で、小ぶりの楽器である。そのため中学1年生でもしっかりと楽器を持ち、弦を押さえることができるのが、ギターに比べて扱いやすい点である。また、保管場所もコンパクトである。和声の学習を組み入れながら、コード弾きで演奏を行う。ギターやウクレレのよさとして、持ち運べることと、伴奏楽器として歌唱と合わせて演奏できるという点がある。何よりも旋律のためのコード伴奏であるので、弾き歌いに挑戦していく。

教材として扱う楽曲は、アメリカのポピュラーソング「You Are My Sunshine」である。基本コード（C・F・G7）で演奏が可能であり、少しオシャレな演奏として加えられるC7も、押さえやすいコードとなっている。英語の授業でも常に歌を歌っており、諸外国の歌の導入としても今後の題材につなげていけると考える。また世界中にたくさんのアレンジが存在している曲であり、右手のストローク（使用する指やリズム）によって曲想の変化を楽しめる曲である。自分がどのような曲にしたいのか、技能と関わらせながら、思いや意図をもった器楽表現の力を身に付けさせたい。

4 生徒の学びの履歴

1年次にも「Happy Birthday to You」を用い、ウクレレの弾き語りの学習を行っている。初めて和音とコードの学習を行いながら、「誰に送る歌か」をテーマにストロークの回数やテンポを各自が思いや意図をもって設定し演奏を行った。ストロークは親指のダウンストロークを基本とした。今回は、人差し指でのストロークやアップストロークの練習を取り入れながら、演奏表現の幅を広げ、どのように演奏するとより自分のイメージする曲想に近づくのか、仲間との対話的・協働的な活動を織り交ぜながら試行錯誤し、表現の技能を高めていってほしい。前期に学習した多声音楽（ポリフォニー）とはまた違う、和声音楽（ホモフォニー）のよさを感じ、コード進行の響きや和音が解決した時の雰囲気を感じ取らせたい。

5 資質・能力育成のプロセス（4時間扱い、本時 は3時間目）

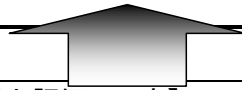
次	時	評価規準（想定する「Bと判断する状況」）	【 】内は評価方法及び Cと判断する状況への手立て
1	1 2	<p>態 弦楽器の音色やリズムと曲想との関係に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。（○）</p> <p>技 創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能を身に付け、器楽で表している。（○）</p> <p>知 ウクレレの音色や響きと奏法との関わりについて理解している。（○◎）</p>	<p>【行動の観察】 C：音を出して響きの美しさを感じ取らせたり、ワークシートにストロークの特徴を記述したりすることを促す。</p> <p>【行動の観察】【授業カードの記述の確認】 C：仲間からアドバイスをもらったり、写真に撮ったりして、楽器の構え方や左手のポジションの課題を確認させる。</p> <p>【ワークシートの記述の分析】 C：わからないことを仲間と相談するように促す。左手のコードの押さえ方やストロークのポイントを質問しながら記述内容を確認し、記述の助言を行う。</p>
3		<p>思 音色、リズムを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい器楽表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。（○◎）</p>	<p>【行動の観察】 【ワークシートの記述の分析】 C：曲のイメージやどのような感じが好きなのかを考えるよう促す。仲間の考えを参考に、自分の考えを記入するよう声かけをする。</p>
4		<p>技 創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能を身に付け、器楽で表している。（◎）</p> <p>態 弦楽器の音色やリズムと曲想との関係に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。（◎）</p>	<p>【演奏の分析】 C：一つずつコードの確認をしたうえで、曲を部分ごとに分けて、繰り返しの取組を促す。ストロークのリズムや歌との関わりを仲間と確認し合うよう声かけをする。</p> <p>【行動の観察】【ワークシートの記述の分析】 【授業カードの記述の分析】 C：演奏の思いや意図を確認させ、それに合う演奏方法を言葉で表すよう促す。歌と共に演奏できる部分から、弾いていくように助言する。</p>

主たる学習活動	指導上の留意点	時
<ul style="list-style-type: none"> ・1年次の学習（構え方、チューニング、親指でのダウンストローク、C・F・G₇のコード）の振り返りをする。 ・既習曲「Happy Birthday to You」を演奏する。 ・学習プランを確認し、本題題材の見通しをもつ。 ・「You Are My Sunshine」を歌唱する。 ・コードを確認し、仲間と助け合いながら演奏に取り組む。 ・アップストロークや人差し指でのストロークについて知る。 ・アップストロークや基本的なリズムパターンのストロークを演奏する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【課題】 リズムの特徴を生かし、イメージに合った音色で演奏するための奏法を工夫しよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ストロークやリズムの違いによる曲想の変化について感じ取り、班で共有する。 ・ワークシートに特徴をまとめる。 ・何種類かの「You Are My Sunshine」を聴く。 ・誰に、どのような演奏を贈るかを決め、自分の演奏したい曲想のイメージをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽器の取り扱いに注意するよう、常に声かけをしていく。 ・チューニングを行いながら、ウクレレの音色に耳を傾けさせる。 ・1年次のプリントを使用するなどして、指の押さえ方のポイントや、ストロークの位置など確認をする。 ・動画を視聴しながら、旋律を覚えられるようにしていく。 ・既習のコードで演奏できることを確認し、歌うことと弾くことを交互に行ったり、仲間と役割分担したりしながら、曲の流れをつかませる。 ・人差し指のダウンストローク、8分でのダウンアップ、3連符系（シャッフルビート）のリズムでのダウンアップを紹介する。 ・模範演奏や、自分たちの演奏から、曲想のイメージをもたせ、知覚と感受が結び付くように言語化させていく。 ・演奏表現の多様さを感じ取らせる。 ・イメージに合った表現の工夫を考える際には、音を介しながら行うように声かけをする。 	1 2
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の演奏したい表現にするには、どのようなリズムや音色、テンポが適しているのか、考えをまとめる。 ・班でお互いの意見を共有する。 ・よりよい表現を目指して試行錯誤する。 ・考えた表現の工夫が演奏で表現できているか、録画等を行い、振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コードの基本的な押さえ方や、各自のワークシートに書かれた思いや意図の確認をしながら、机間支援を行う。 ・困っている生徒には、仲間の意見を取り入れながら考えさせる。 ・演奏の技法と曲想がマッチしているのか、客観的に聴くよう声かけをする。 	3
<ul style="list-style-type: none"> ・前時の振り返りを生かし、表現の工夫について仲間と助言し合いながら、演奏する。 ・班で発表し合い、その様子を動画に録画する。 ・演奏や工夫について感想を述べ合う。 ・Teamsに動画をアップロードする。 ・本題材の学習を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・流れを意識した演奏ができるように、適宜歌唱を行う。 ・4人班で、演奏の工夫と弾き語りの発表をそれぞれ撮影し合う。 ・題材を通して学んだことや、他教科や今後の生活にどのように関わらせたり生かしたりすることができると思うかについて考えさせていく。 	4

6 学びの実現に向けた授業デザイン

【「学びに向かう力」が高まっている生徒の姿】

弦楽器の音色やリズムとの曲想の関係に関心をもち、自分のイメージと表現を重ね合わせながら創意工夫を行い、演奏表現に粘り強く取り組んでいる姿。



【「学びに向かう力」を高めていくための指導と評価の工夫】

○観点別学習状況のあり方

1. 「知識・技能」の指導と評価

本題材における知識とは、楽器の構え方やストロークの仕方などの身体の使い方に加え、ストロークの違いによる響きや生み出す雰囲気の違いの理解であり、技能とは、それを用いて創意工夫した表現で演奏表現をする能力である。ウクレレやコード演奏の特性として、また曲の創意工夫の手立てともなるように、今回は弾き語りで行う。（歌唱の音程等については評価と関わらせない。）自分のイメージと表現を重ね合わせながら創意工夫していく際に、弦の響きやリズムとの関わりを知覚・感受し、表現している姿を目指したい。また技能は、昨年度学習したコードだけで演奏できる曲にし、ストロークによるリズムや音色の違いが表現できる技能を身に付けさせていきたい。ペアワークでアドバイスをしあったり、仲間と表現を伝え合ったりする場面を多く設定していくことで表現力もついていくと考える。それぞれの演奏を評価し、録画を行っていく。

2. 「思考・判断・表現」の指導と評価

「You Are My Sunshine」の歌唱演奏を数種類鑑賞することで、同じ曲でも曲想を変えて演奏表現できることを感じ取らせていく。弾き歌いをプレゼントする相手を決め、曲の創意工夫の際には「誰に贈るか」も視野に入れて考えていくことで、イメージが浮かびやすくなるのではないかと考える。考えた表現と、実際の演奏がマッチしているのか、TPCで適宜録画を行い客観的に聴き返しながら、自分のイメージと表現が重ね合わさった演奏を目指させていく。

3. 「主体的に学習に取り組む態度」の指導と評価

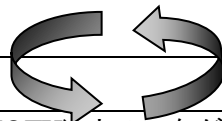
器楽が苦手な生徒に対しては、まず認め励まし、粘り強く取り組んでいけるよう支援する。弾けば音が出る楽器の利点を生かし、運指や美しい音色の出し方などを仲間と教え合える環境づくりを大切にしたい。発表までの個々へのフィードバック・フィードフォワードも肝要であるとする。また、授業カードや振り返りの中での、課題に対して手立てを考え、実行してどうだったのかという試行錯誤の様子やその変容、曲想に合わせた表現を工夫する際の考え方のポイント（題材を通して身に付けたこと）を評価していく。

○生徒が粘り強さを発揮し、自らの学習を調整するための場面や学習活動の工夫

ストロークによる表現の違いを感じ取る学習では、仲間と交流することで、表現の語彙を増やしたり知識として獲得したりできるようにさせていく。また、押さえられるコードでストロークの練習を行い、その表現の違いや面白さを味わわせ、演奏表現に向き合わせていく。練習の仕方の工夫などを考えている生徒の授業カードを紹介するなどし、技能向上の手立てを適宜伝えながら、ペアワークでアドバイスし合ったり、仲間と協働的に学んだりする時間を作っていく。TPCの録画機能を活用し、自分の演奏の「やりたいこと」と「やれていること」「聞こえているもの」の差異を客観的に感じ取らせ、修正の場面を設定していく。

【本題材での指導事項】

- ・ A表現 (2) 器楽 ア, イ(イ), ウ(ア)
- ・ [共通事項] ア, イ (音色, リズム)



【本題材における、総合的な学習の時間（TOFY）とのつながり】

特徴を聴き取ることや技能の獲得においては、**比較する・関連付ける**活動が必要となってくる。また、創意工夫の際に自分の思いや意図を他者に伝えていくことは、**理由付ける**力が育まれると考える。そしてよりよい演奏表現を行うためには**見通す**ことが大切になってくる。